

「あなたの道を主にゆだねよ」

詩篇 37:1-9

【1】ダビデの状況

神に祝福された人を思う時、聖書の中のダビデを思い出す。彼は神に目をかけられ、取扱を受け、祝福された人であった。神はダビデに契約を与え、ダビデを様々な困難の中でも守り、導き、祝福すると約束された。しかし、ダビデの生涯をたどっていくとき、必ずしもその生涯は順風満帆ではなかった。彼は試練の中を通らされたのである。この試練の中にも私たちは神の御手が置かれていたことを確認することができるのは幸いである。

今日のみことばは試練や苦しみの中にあつたダビデによる詩篇である。ダビデはその信仰のゆえに苦しみ、困難に出会った。そのような試練の中でつくられたからこそ、この詩篇は私たちにも慰めと励ましを与えるのである。

信仰による試練は聖化へと通じるのである。

【2】私たちが支配するもの

私たちは、与えられた生涯を主に信頼して、ゆだねていくことが最善の道であると教えられている。しかし、その歩みの中で私たちは主以外のものによって心が支配されてしまうことがある。そのような罠に注意したい。この詩篇で警告していることは、私たちの「怒り」である。しかし、ここに記されている怒りとは、人の気まぐれの怒りではない。神を知る者の怒り、義憤と言ってよいだろう。しかし、この義憤でさえも聖書は退けよと命じている

(8)。信仰者は怒りではなく、神ご自身とその御約束によって支配されなければならない。怒りは神から私たちが

引き離す罠となる。1-2 節には、悪を行う者、不正を行う者の行く末が記されている。彼らは永遠ではない。

【3】主にゆだねる幸い

「道」とは私たちの人生の歩みのことである。それは私たちの生き方、時間の過ごし方に関わる問題である。その自分の道を主にゆだねて歩むのか、繁栄や成功を求めて生きていくのか大きな問題となる。

「ゆだねる」ということばは、元々は「転がす」と翻訳されるようなことばである。つまり、主の主権の上に自分の人生をまかせるということである。それは一見すると危険な賭けのようにも思える。自分の思っていた人生とは異なる生き方になるかもしれないからだ。そのような道は普通私たちは避けるものである。しかし、聖書は「あなたの道を主にゆだねよ。」(5)と勧めるのである。どうしてそのような歩みができるのであろうか。それは、主ご自身の約束に関わることである。

今日、私たちはもう一度この主の約束への信頼が問われているのである。主なる神に信頼するとき、主は正しい道へと私たちに導き、ご自身の御業を成し遂げてくださるからである。つまり、主は私たちの思いや願い、計画をはるかに超えたことをしてくださるというのである(6)。

だからこそ、今私たちは主の約束を信頼し、期待し、身悶えしながらも信仰を働かせるのである。主に道をゆだねたにも関わらず、その歩みは一向に豊かにならずに苦しみがともなうことさえある。信仰が弱ってしまうこともある。だからこそ、私たちは主のみことばを繰り返し聞かなければならないのである。主の約束に立とう。